

(続) ナポレオンの三角形



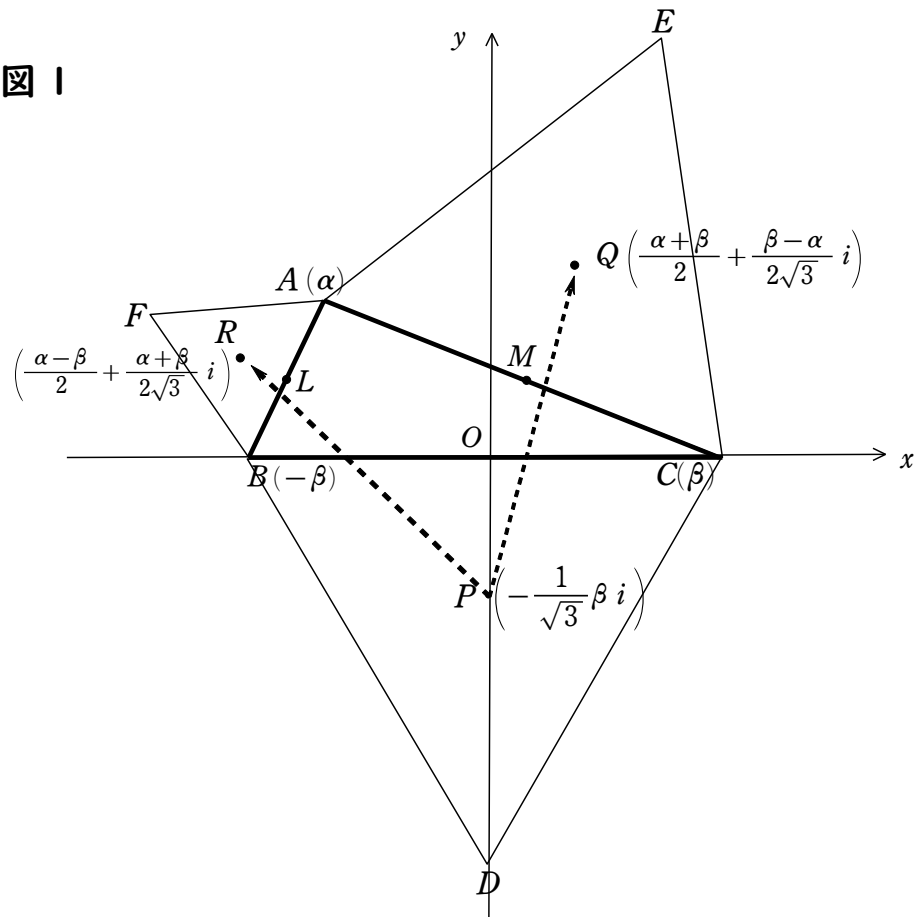
山脇の超数学講座 No. 51



「ナポレオンの三角形」の証明を、複素数平面を用いておこなってみよう。

証明 II $\triangle ABC$ の辺 BC の中点を原点として、直線 BC を実軸の上に乗せる。 C, B を表す複素数をそれぞれ $\beta, -\beta$ とおく。点 A を表す複素数を α とし、 β は実数であり、 $\beta > 0$ とする。また、 α の虚部の値も正であるとする。

図 1



辺 BC, CA, AB を 1 辺とする正三角形を $\triangle ABC$ の外側に描く。それぞれ $\triangle BCD, \triangle CAE, \triangle ABF$ とし、その重心をそれぞれ P, Q, R とする。

点 P を表す複素数 z_1 は、線分の比と $-\frac{\pi}{2}$ 回転を考慮して $z_1 = -\frac{1}{\sqrt{3}}\beta i$ である。

点 Q を表す複素数 z_2 は、辺 AC の中点 $M\left(\frac{\alpha+\beta}{2}\right)$ を中心に、点 β を $\frac{\pi}{2}$ 回転して、大きさを $\frac{1}{\sqrt{3}}$ 倍にすると考えて、 $z_2 - \frac{\alpha+\beta}{2} = \frac{1}{\sqrt{3}}i\left(\beta - \frac{\alpha+\beta}{2}\right)$

ゆえに、 $z_2 = \frac{\alpha+\beta}{2} + \frac{\beta-\alpha}{2\sqrt{3}}i$ 、点 R を表す複素数 z_3 も同様に考えて、

$z_3 - \frac{\alpha-\beta}{2} = \frac{1}{\sqrt{3}}i\left(\alpha - \frac{\alpha-\beta}{2}\right)$ 、ゆえに、 $z_3 = \frac{\alpha-\beta}{2} + \frac{\alpha+\beta}{2\sqrt{3}}i$

$\triangle PQR$ が正三角形であることを証明するには、あえてベクトルを使うと、点 P を中心に \overrightarrow{PQ} を $\frac{\pi}{3}$ 回転 (60° 回転) させたとき、 \overrightarrow{PR} に重なればよい。複素数では次のようになる。

$$z_3 - z_1 = \left(\cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3}\right)(z_2 - z_1) = \left(\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i\right)\left(\frac{\alpha+\beta}{2} + \frac{\beta-\alpha}{2\sqrt{3}}i + \frac{1}{\sqrt{3}}\beta i\right) \dots\dots ①$$

$$\text{右辺} = \frac{\alpha+\beta - (3\beta-\alpha)}{4} + \frac{3(\alpha+\beta) + 3\beta-\alpha}{4\sqrt{3}}i = \frac{\alpha-\beta}{2} + \frac{\alpha+3\beta}{2\sqrt{3}}i,$$

$$\text{一方、左辺} = \frac{\alpha-\beta}{2} + \frac{\alpha+\beta}{2\sqrt{3}}i + \frac{1}{\sqrt{3}}\beta i = \frac{\alpha-\beta}{2} + \frac{\alpha+3\beta}{2\sqrt{3}}i \text{ となって①が成立した。}$$

辺 BC, CA, AB を 1 辺とする正三角形を $\triangle ABC$ の内側に描く場合、それぞれの重心を点 P', Q', R' とすると、対称性により、 $P'\left(\frac{1}{\sqrt{3}}\beta i\right)$ となり、また、

$$Q'\left(\frac{\alpha+\beta}{2} - \frac{\beta-\alpha}{2\sqrt{3}}i\right), R'\left(\frac{\alpha-\beta}{2} - \frac{\alpha+\beta}{2\sqrt{3}}i\right) \text{ となるので、} \triangle PQR \text{ の場合と同様に、}$$

$\triangle P'Q'R'$ も正三角形であることが証明できる。ここで $P'(z_1'), Q'(z_2'), R'(z_3')$ とおく。 $\triangle ABC, \triangle PQR, \triangle P'Q'R'$ の面積を、それぞれ S, S_1, S_2 とすると、

$$S = \frac{1}{2} \times 2\beta \times \frac{|\alpha - \bar{\alpha}|}{2} = \frac{1}{2} |\alpha - \bar{\alpha}| \beta, \quad [\alpha - \bar{\alpha} \text{ は純虚数で、} \frac{|\alpha - \bar{\alpha}|}{2} \text{ は「高さ」となる}]$$

ここで、 $z_2 - z_1 = a + bi$ とおくと、 $z_2' - z_1' = a - bi$ となる。 $(a, b \text{ は複素数})$

$$S_1 = \frac{1}{2} |z_2 - z_1|^2 \sin \frac{\pi}{3} = \frac{\sqrt{3}}{4} |a + bi|^2 = \frac{\sqrt{3}}{4} (a + bi)(\bar{a} - \bar{b}i) \\ = \frac{\sqrt{3}}{4} \{ |a|^2 + |b|^2 + (\bar{a}b - a\bar{b})i \}$$

$$S_2 = \frac{\sqrt{3}}{4} |a - bi|^2 = \frac{\sqrt{3}}{4} (a - bi)(\bar{a} + \bar{b}i) = \frac{\sqrt{3}}{4} \{ |a|^2 + |b|^2 - (\bar{a}b - a\bar{b})i \}$$

$$\text{ゆえに、} S_1 - S_2 = \frac{\sqrt{3}}{2} (\bar{a}b - a\bar{b})i = \frac{\sqrt{3}}{2} |\bar{a}b - a\bar{b}| \dots\dots ② \quad (\because \bar{a}b - a\bar{b} \text{ もまた純虚数})$$

$$a = \frac{\alpha+\beta}{2}, \quad b = \frac{3\beta-\alpha}{2\sqrt{3}} \text{ であるから、}$$

$$\bar{a}b - a\bar{b} = \left(\frac{\bar{\alpha}+\beta}{2}\right)\left(\frac{3\beta-\alpha}{2\sqrt{3}}\right) - \left(\frac{\alpha+\beta}{2}\right)\left(\frac{3\beta-\bar{\alpha}}{2\sqrt{3}}\right) = \frac{(\bar{\alpha}-\alpha)\beta}{\sqrt{3}} \dots\dots ③, \quad ② \text{ に代入して、}$$

$$S_1 - S_2 = \frac{\sqrt{3}}{2} \times \left| \frac{(\bar{\alpha}-\alpha)\beta}{\sqrt{3}} \right| = \frac{1}{2} |\alpha - \bar{\alpha}| \beta = S \text{ となり、「ナポレオンの外三角形」}$$

と「内三角形」の面積の差は、元の三角形 ($\triangle ABC$) の面積と等しいことが証明された。

コメント 複素数平面の利用は、正三角形の証明が鮮やかだが、面積の差の証明はやや困難なところがある。しかし、このような別解の存在の中に数学の大きな可能性と魅力がある。